

今月号の ■ 「群馬県中之条町と THInet & 群馬大学伊藤賢一科研費PT」との提携事業の トピックス 協定書締結と、リーダー養成講習会

群馬県中之条町と群馬大学伊藤賢一科学研究PT & THInet は、昨年12月27日に「ネットによる健康被害から子どもを守る学校教育・保護者啓発・教員研修の総合プロジェクト」の提携事業について協定書を締結しました。その事業の一環として、2月に4回教職員の啓発活動のリーダー養成のため「THInet 認定講習会プログラム」での研修会を実施しました。

リーダー養成講習会実施

中之条町において2年間の連携事業終了後、自前の講師でネット健康被害問題の啓発活動を行うため、町の職員、保育園、中学校の先生と合わせて4名の方が、インストラクター資格の取得を目指して、THInetの認定講習3日間を受講しました。そして、後半2日間を、2月1日～22日までの毎週火曜日に半日コースで4回、オンラインと対面で実施しました。

参加者の発言の中で、中学校の先生が、視力1.0未満の生徒が全体の半数を上回っている。これは、慶応義塾大学の坪田教授の調査報告の東京圏だけの話ではない、という事がわかり、切実な問題だと感じました。

最終日の演習では、実際に講演するときを想定して、一人ずつ課題を設定しPP制作に取り組みました。

お一人は、町の職員の若い方の睡眠時間が少ないように感じており、仕事に眠そうにしているのが気になるということで、睡眠の大切さを伝える内容を作成しました。

中学校の先生は、自校の実態調査を受けて、強度近視と目の機能の維持についてまとめていました。

保育園の先生は、保護者にもわかりやすく伝えたいという観点から、小学校低学年向けに資料を作りました。

課題提出が楽しみです。4名の皆さん、ご苦労様でした。(文責・ウッド)



協定式 左から 大谷、伊藤、伊能町長、宮崎教育長
群馬大学情報学部学部長室において

連携事業の目的は(提案企画書より)

(1)「アウトメディア」等、子どものメディアやネットの利用の仕方について町ぐるみで取り組んでおられる中之条町を支援し、すべての子どもたちがネット端末を利用するようになった新局面において、取り組みがレベルアップができることを目的とする。

(2) 一人一台端末時代になり、あらたなネットいじめ、ネット被害、ネット健康被害について報道されている。これらに対する、文科省の施策は極めて遅れており憂慮される。この現状の中で、伊藤科研プロジェクト & THInet 開発委員会を核として協働研究を進める研究・啓発団体が開発した、「先進的情報モラル教育(ネット健康被害リスク)」のカリキュラムを、一つの行政単位において実施し検証を行う。

(3) 開発カリキュラムの検証結果とその制作教材、実践報告を、文科省をはじめ、関係機関、学会等で発表し全国に普及させたい。(文責・大谷)